

令和2年度事業計画書

公益財団法人日中友好会館

令和2年12月17日

目次

	頁
〔Ⅰ〕 公益目的事業	
(公1) 青少年交流・教育交流事業 : 総合交流部	3
対日理解促進交流プログラムJENESYS2020	
(公2) 寄宿舍施設の運営 : 留学生事業部	6
(公3) 中国語及び日本語教育 : 日中学院	7
(公4) 文化事業 : 文化事業部	12
(公5) 植林・植樹事業 : 総合交流部	14
日中植林・植樹国際連帯事業	
〔Ⅱ〕 収益事業 : 資産管理部	18
〔Ⅲ〕 会員相互扶助事業 : 日中友好後楽会	20
〔Ⅳ〕 法人会計部門	21
(1) 総務・人事	21
(2) 財務	21
(3) 広報	21

〔I〕公益目的事業

(公1) 青少年交流・教育交流事業： 総合交流部

対日理解促進交流プログラム JENESYS2020

日本政府は令和2年度予算にて、対日理解促進交流プログラム JENESYS2020 を実施予定。会館は中国との間で JENESYS2020 を実施するため日本国政府から約1億45百万円の拠出を受ける。

平成31・令和元年度は、対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の拠出金(1億86百万円)及び前年度拠出された JENESYS2018 の拠出金の残額(8百万円)をあわせて約1億94百万円で、約470名の招聘事業と10名の派遣事業を実施。

令和2年度は、JENESYS2020 の事業予算(上記)及び JENESYS2019 の残額(約8百万円)とあわせて約1億53百万円を使用し、JENESYS2020 として年間375名の招聘事業を行うことを計画。本事業を通じ、対外発信力を有し将来を担う人材を招聘し、政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、日本の外交姿勢や魅力等について被招聘者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、日本の外交基盤を拡充することを目指す。令和2年は「日中文化・スポーツ交流推進年」であり、JENESYS2020 の中国青少年の招聘375名は、全て同年認定事業として実施予定(日中植林・植樹国際連帯事業と併せて認定事業は全体で約2,400名の予定)。

【中国からの招聘事業】

	案件	中国側実施機関	人数
1	中国高校生短期招聘	教育部	10
2	香港・澳門高校生短期招聘	香港・澳門教育局	75
3	中国青年短期招聘(公務員・農村青年幹部)	中日友好協会	60
4	第二十五回中国教育関係者代表団	中日友好協会	60
5	中国青年メディア関係者代表団	国務院新聞弁公室	120
6	中国社会科学院青年研究者代表団	中国社会科学院	50
		計	375

何れの事業も、滞在中に、対日理解促進を目的とした日本の政治、経済、社会、歴史、文化、外交政策等の聴講、教育・研究機関、先端・伝統産業、文化遺産、地方自治体等の訪問・視察、訪問先での関係者等との意見交換や交流、ホームステイや伝統芸能などの体験をプログラムに組み込み、報告会やSNS等を利用した日本の魅力等についての情報発

信を促す。

① 中国高校生短期招聘事業（教育部）（前表No.1）

中国教育部派遣の中国高校生 10 名（アジア国際子ども映画祭参加者）を招聘。

滞在期間は 8 泊 9 日で招聘。招聘時期は調整中。アジア国際子ども映画祭への参加と日本の高校生との交流等を行う。

中国側担当機関：中国教育部

受入実施：日中友好会館

② 香港・澳門高校生短期招聘事業（香港・澳門教育局）（前表No.2）

香港・澳門教育局派遣の香港・澳門高校生 75 名を招聘。

滞在期間は 8 泊 9 日で招聘。招聘時期は調整中。日本の高校生との交流やホームステイ、テーマに関するセミナー・視察等を行う。

中国側担当機関：香港特別行政区政府教育局、澳門特別行政区政府教育・青年局

受入実施：日中友好会館

③ 中国青年短期招聘事業(中日友好協会)（前表No.3）

中国の公務員・農村青年幹部 60 名を招聘。滞在期間は 4 泊 5 日で招聘。招聘時期は調整中。日本の同分野の青年との交流や関係施設への訪問・視察をメインプログラムとする。

中国側担当機関：中日友好協会

受入実施：日中友好会館

④ 第二十五回中国教育関係者代表団(中日友好協会)（前表No.4）

中日友好協会と会館との間で長年続く事業。中国の教育関係者 60 名を招聘。滞在期間は 4 泊 5 日。招聘時期は調整中。日本の教育現場の視察及び教育関係者（小学校から高校、教育委員会等）との交流をメインプログラムとする。

中国側担当機関：中日友好協会

受入実施：日中友好会館

⑤ 中国青年メディア関係者代表団（中国国務院新聞弁公室）（前表No.5）

中央、地方の若手メディア関係者、メディア行政担当者 120 名を 2 回に分けて招聘。滞在期間は 7 泊 8 日を予定。招聘時期・テーマは調整中。日本のメディアとの交流のほか、テーマに関する視察・交流を行う。

中国側担当機関：中国国務院新聞弁公室

受入実施：日中友好会館

⑥ 中国社会科学院青年研究者代表団（中国社会科学院）（前表No.6）

中国社会科学院に所属する若手研究者 50 名を 2 回に分けて招聘。滞在期間は 7 泊 8 日を予定。招聘時期・テーマは調整中。日本の研究者との交流やテーマに沿った交流・視察を行う。

中国側担当機関：中国社会科学院

受入実施：日中友好会館

(公2) 寄宿舎施設の運営： 留学生事業部

会館には留学生・研究員の受入事業用施設として「後楽寮」と「後楽寮研修棟」があり、「後楽寮」には203室、「後楽寮研修棟」(後楽賓館の2階・3階)には34室の個室がある。本年度、後楽寮は1985年の開設以来35年が経過するが、2018年度に改修した後楽寮研修棟の2階に続き、研修棟3階の改修工事を実施し、居住環境の維持管理と円滑な運営を図る。

(1) 入居率の継続と維持

令和1年度の年間入居率は80%となった。本年度も入退寮の調整を円滑に進め安定的な入居率が維持継続できるよう努力する。

(2) 寮生委員会(寮生代表による自治組織)への協力

第45期寮生委員会が選出され、1年間(2019年12月～2020年11月)の活動を開始。本年度も数多くの委員会活動や各種行事および交流会が行われるので、留学生事業部としても全ての活動に最大限の協力を行う。又、春節や国慶節行事で好評を得ている「後楽寮芸術団」は結成9年を迎える。この芸術団の活動についても寮生委員会活動とともに支援、協力する。

(3) 後楽寮生主体の交流会の実施

寮生が主体となり日本人大学生等との交流を計画して2年目となる本年は、寮生委員会を軸にして交流の規模拡大を図る。また年間を通じて交流が続くよう努力する。

(4) 留学生の生活環境改善

寮生委員会と留学生事業部の間で行っている毎月の定例協議会を継続し、寮生の意見や希望を確認しながら予算範囲の中で備品の更新や環境改善を進める。また後楽寮施設の維持に必要な設備更新や改修工事も継続して行う。

(5) 後楽会(中国)の発展

後楽寮生OB組織である「後楽会(中国)友好聯誼会」は設立8周年を迎える。本年度も同会の充実と発展に協力するとともに分会設立を通して元寮生の実質的掌握を図る。

(公3) 中国語及び日本語教育： 日中学院

本科は学生確保が依然として厳しい状況が続いていますが、ホームページの改善、高校、大学、短大への広報などを強化し、入学者数増加に努めます。中国人民大学への夏季短期留学を継続実施します。

別科はHSK対策講座を充実させます。語学以外の文化講座を増設します。天津外国語大学での短期研修を継続実施します。

日本語科は平成29年度から実施した新コース（10月入学）が定着し、4月と10月の年2回の入学制度を実施しています。講師体制も強化し、教育水準を維持向上させます。

公益に資する事業として、中国理解のための講演会、公開講座などを開きます。図書の実践、広報に努め、日中の相互理解の増進に寄与します。

専門課程

1. 中国語本科（専門課程, 2年制）

中国語本科研究科（専門課程, 1年制）

- ・現在、卒業生の一部が卒業後の進路として、大学2・3年への編入を選択しています。
- ・学生確保のために学生募集（営業）の範囲を短大、大学に広げ学生募集活動に注力します。
- ・学生のレベル向上のために、中国語検定、HSKを活用し、レベル測定を行います。
- ・本科の一部の授業を他講座学生に対しオープン授業とします。
- ・教育基金を利用し、学生のスキルアップへの援助を実施します。
- ・勤労学生への学費減免措置を継続実施します。

(1) 学生数

学則		令和2年度予想		令和1年度実績		平成30年度実績	
クラス	定員	クラス	予想数	クラス	実績	クラス	実績
1年：2	40	1	10	1	14	1	20
2年：2	40	1	10	1	13	1	14
研究：1	20	1	5	1	2	1	1
合計	100	3	25	3	29	3	35

(2) 諸活動

- | | | |
|--------|----------|----------------------|
| ① 入学式 | 4月4日 | 本科・日本語科合同入学式 |
| ② 都内見学 | 4月24日 | 日本語科生との交流を通して相互理解を促進 |
| ③ 合宿 | 5月28、29日 | 本科・日本語科合同合宿 |

- ④ 進路懇談会 1 回予定 業界代表の講演、卒業生との懇談会
- ⑤ 進路相談面接 2 回予定 卒業予定者を中心に個人面接方式による進路指導
- ⑥ 朗読大会 6 月 1 年生を対象に発音学習と第 1 学期の総まとめ会
- ⑦ 本科公開講座 計 3 回 8 月、11 月、1 月に本科入学希望者のために実施
- ⑧ 定期試験 各学期に期末試験を実施、1 年生は中間試験も実施
- ⑨ 短期研修 6 月 22 日～7 月 27 日 2 年生が中国人民大学において 5 週間の中国語研修に参加
- ⑩ 文化祭 10 月 31 日 本科、日本語科を中心に学習成果を発表
- ⑪ 補習 1 月 1 年生の成績不良の学生に対して実施
- ⑫ 合同弁論大会 2 月 本科、日本語科合同により学習成果を発表し相互理解を促進
- ⑬ 卒業式 3 月 本科、日本語科合同卒業式
- ⑭ 入学試験 年間 5 回実施

2. 日本語科（専門課程, 2 年制, 1.5 年生）

エージェント等との協定等による学生募集も軌道に乗り始めました。平成 29 年 10 月以降、新コース 10 月クラスが開講し、定着しました。新クラスの増設が留学生にとって来日の機会を広げ、日本語学習者の増大に一層の貢献をしています。

(1) 学生数 ()内はクラス数

	定員	令和 2 年度 予想	令和 1 年度 実績	平成 30 度 実績
1 年	40 (2)	14 (1)	19 (1)	22 (1)
2 年	40 (2)	17 (1)	17 (1)	22 (2)
10 月 1 年	20 (1)	20 (1)	6 (1)	20(1)
10 月 2 年	20 (1)	6 (1)	18 (1)	17 (1)
合計	定員	57 (4)	60 (4)	81 (5)

(2) 諸活動

- ① 入学式 4 月 4 日 本科・日本語科合同入学式
- ② 新入生歓迎会 4 月 上級生による新入生歓迎
- ③ 都内見学 4 月 24 日 本科 2 年、研究科と合同
- ④ 合宿 5 月 28、29 日 本科・日本語科合同合宿

⑤ 健康診断	5月	来日後の健康状況調査及び進学準備
⑥ 昼食会	6月	別科生との交流
⑦ 進学説明会	6月	先輩を招き経験を聞く。
⑧ 定期試験	計3回	7月、11月、12月に実施
⑨ 個人面接	計3回	担任講師が進路、生活、学習について面談
⑩ ホームステイ	7月	日本人宅への宿泊：日本への理解を深める。
⑪ 10月生入学式	10月1日	10月入学生を迎える
⑫ 文化祭	10月31日	学習成果を発表
⑬ バスハイキング	11月	校友会会員と共に 近郊のバス旅行
⑭ 国会見学	1月	2年生対象
⑮ 合同弁論大会	2月	本科、日本語科合同による学習成果発表
⑯ 卒業式	3月	本科、日本語科合同卒業式

付帯教育

常時約 80 の講座が開設され、600 名近い受講生が学んでいます。

(1) 4月期のクラス構成

	基礎課程			応用課程				研究課程					
	週1	週2	週3	総合	会話	作文	聴解	総合	会話	作文	HSK	講読	通訳
早朝		6							3				
午前		4		2	1				2	1			
午後					1		2		2		1	2	1
夜間	9	3	1	1	2		1						1
土曜	9			1	2				4			1	

上記に含まれない講座

- ①特別講座
- ②春・夏集中講座、一日集中講座
- ③作文添削通信講座
- ④委託講座

(2) 諸活動

- ①1日学習会
- ②朗読大会 10月3日
- ③公開講座 17回
- ④留学生との交流会
- ⑤短期留学 天津外大で9月19～26日を予定
- ⑥その他

教職員運営会議・各委員会活動

教職員運営会議：教職員による運営会議及び専任専従会議を毎月 1 回開催し、各委員会、教職員からの提案、活動報告について検討を加え、決議する。

各委員会活動：55 委員会に分かれ活動を行う。主なものは以下の通り。

(1) 教学委員会

専任講師により構成される。月 1 回の会議を経て教学関係の活動を管理、実施する。

令和 2 年度の主な活動項目は次の通り。

- ①講師の教育レベル向上を目的とした研究会の開催
- ②各講座コースデザインの研究。特に別科において平成 31 年 4 月から基礎過程の教科書「学漢語」の全面改訂作業に入っている。
- ③IT 利用の受講生サポート教育の研究
- ④全国高等学校中国語教育研究会への協力
- ⑤年間 5 回程度の講演会開催を予定する
- ⑥その他

(2) 学務(事務局)

日常の業務処理を円滑に行うため、事務局会議を毎週 1 回開催する。

令和 2 年度は、以下の事項について重点的に取り組む予定です。

- ①受講生受付業務向上の充実
- ②通信教育、委託講座の運営
- ③奨学金の充実、活用
- ④人件費適正化の研究
- ⑤学院報の発行
- ⑥図書館業務の充実
- ⑦全国専修学校振興協会、東専各会員としての活動
- ⑧日本語教育振興協会会員としての活動
- ⑨全国専門学校、各種学校日本語教育協会会員としての活動
- ⑩講座案内の充実
- ⑪後楽寮との交流
- ⑫その他

(3) 広報宣伝委員会

令和 2 年度は以下の活動を実施する予定。

- ①進学ガイド誌への掲載
- ②講座案内の充実
- ③全国の高校あてに案内書送付

- ④HPの更新
- ⑤他団体のHPとのリンクを拡大する
- ⑤駅看板広告
- ⑥高等学校の中国語担当教師への案内送付
- ⑦中国語学会会員への学院報、講座案内の送付
- ⑧日本語科学生募集のため中国国内の留学生仲介機関との交流
- ①その他

(4) 倉石賞選考委員会

令和2年度には第22回「日中学院倉石賞」を募集選考し、該当者に授与する。

募集期間：6月1日（月）～8月20日（木）

選考委員会開催と受賞者決定：9月

授賞式・祝賀会：11月

(5) 校友会活動 平成30年度は以下の活動を実施する予定。

- ①講演会
- ②留学生とのバスハイク
- ③中国旅行（3月）
- ④総会（6月）
- ⑤教育研究所活動
- ⑥その他

(公4) 文化事業： 文化事業部

令和2年度は、主催催事4本（主催展3件及び主催公演1件）を実施。又、主催展以外の期間には他団体へ美術館を貸し出すことにより、多くの展示を通じて優れた文化の紹介に努める。

(1) 主催展「四川省無形文化遺産精品展（仮称）」

四川省の豊富多彩な国家級無形文化遺産から竹工芸、銀糸工芸、刺繍といった多様なジャンルから傑作を厳選し、展示する。これまでは「竹細工展」などひとつの工芸に焦点化した展覧会を開催してきたが、今回はより幅広い工芸を紹介する「総合展」を試みる。

会期中には制作体験や川劇ミニ劇場を設け、来場者に四川省の魅力を多角的に紹介する。

主催：（公財）日中友好会館、四川省無形文化遺産保護センター

会期：2020年6月19日（金）～7月12日（日）

会場：日中友好会館美術館

(2) 主催催事「第30回中国文化之日」

令和2年度の「中国文化之日」も以下のとおり公演と展示を実施する。

今回は、陝西省より皮影戯（影絵劇）の展示品および公演団を招聘し催事を行う。

(2)－1 主催展「Chinese Shadow Puppets 陝西省影絵の世界（仮称）」

陝西省を代表する皮影の作家兄弟・汪天穩と汪天喜を中心とした皮影作品と関連道具を展示。光と影が織りなす幻想的な展示空間で効果的に皮影を紹介する。

また美術館内に皮影の体験コーナーを設け、来場者に皮影の「静と動」で異なる美しさを感じてもらう。

主催：（公財）日中友好会館、陝西省対外文化交流促進会

会期：2020年9月25日（金）～10月25日（日）

会場：日中友好会館美術館

(2)－2 主催公演「Chinese Shadow Puppets 陝西省影絵劇（仮称）」

ユネスコの世界無形文化遺産にも登録されている中国の影絵劇（皮影劇）。本公演では中国影絵劇の発祥地で2000年の歴史があるといわれる陝西省の影絵劇を紹介する。

劇中の音楽は昔ながらの「ライブ演奏」を採用し、古き良き時代の街角娯楽を

来場者に届ける。会期に合わせて中国物産展も開催する。

主催：(公財) 日中友好会館、陝西省对外文化交流促進会

出演：陝西民間芸術劇院有限公司

会期：2020年10月23日(金)～25(日)

会場：日中友好会館地下1階大ホール

(3) 主催展

内容未定。これから検討して決定。現時点での候補として、中国美術館の民間工芸品、陝西省の剪紙などがある。

主催：(公財) 日中友好会館、未定

会期：2021年1月下旬から2月中旬を予定

会場：日中友好会館美術館

(公5) 植林・植樹事業： 総合交流部

日中植林・植樹国際連帯事業

日本政府は、平成27年度補正予算により、日中植林・植樹国際連帯事業を実施することを決定。本事業は、日本へ飛来し得る黄砂等の中国の環境問題への対処、青少年等の交流を通じた環境意識の啓発と対日理解の一層の促進、砂漠化防止等への貢献を図ることで、中国との関係改善の流れを一層力強いものにするるとともに、国際社会の課題に対処することを通じて、「戦略的互惠関係」の強化につなげていくことを目的としている。本事業では(1)中国での植林事業、(2)日本国内での植樹と併せて行う日中両国の青少年等の交流事業、(3)第三国での植林・植樹事業の3つの事業を行う。

(1) 中国での植林事業

中国での植林事業は、公募による日本の民間団体や地方自治体に対する助成方式で行う植林事業と、会館が主体となり実施する植林事業に分かれる。

助成事業は、日本のNGO等民間団体や日本の地方自治体からの申請を受けて審査し助成を決定。中国国内の砂漠化防止や水害防止に資するような植林事業に助成する。助成を受けた団体等は会館の実施規程に従い、中国国内の団体等と協力して当該事業を実施する。助成対象には現地での植林活動への日本からの参加者の派遣を含む。年間約12件の助成を目標とする。

会館が主体となり実施する植林事業は、外務省と連携して中国側の協力を得ながら植林を実施。日中両国政府間での調整を経て、外務省からの計画の通知を受け、会館が中国国家林業・草原局等と協力し、実施する。現地での植林活動への日本からの参加者の派遣を含む。

(2) 日本国内での植樹と併せて行う日中両国の青少年等の交流事業（日中両国以外の第三国及び地域の出身者の参加を含む）（公1）から（公5）に移動

令和2年度は平成31・令和元年度実績（約2,000名）を超える招聘を計画しており、会館が主体となり、外務省と連携して、中国側調整機関や第三国・地域調整機関、地方公共団体を含む国内の関係団体等の協力を得ながら日中両国の青少年等の交流事業を実施予定。招聘人数は年間2,725名（中国2,275名、第三国・地域450名）を目標とする。訪日プログラムには、植樹、環境(防災を含む)の啓発プログラム、高校・大学訪問、企業視察等を組み込む。令和2年は「日中文化・スポーツ交流推進年」であり、中国青少年の招聘では、「5つのかけ橋」プロジェクト（①地方間交流、②青少年交流、③文化・スポーツ交流、④女性交流、⑤コンテンツ交流）を中心に、中国青少年の招聘約2,000名を同年認定事業として実施予定（JENESYS2020 375名と併せて認定事業は全体で約2,400名の予定）。なお、招聘事業の一部は、企画競争により他団体に委託して実施予定。

【中国からの招聘事業】

	案件	中国側実施機関	人数
1	中国高校生短期招聘 ※	中国教育部	800
2	中国大学生短期招聘 ※	中日友好協会	600
3	中国大学生短期招聘 ※	上海交通大学	300
4	中国青年短期招聘 ※	中華全国青年連合会	100
5	中国青年短期招聘 ※	中国宋慶齡基金会	100
6	中国青年短期招聘（戦略的招聘）	在中国日本国大使館等の調整による	375
		計	2,275

※「5つのかけ橋」プロジェクト（①地方間交流、②青少年交流、③文化・スポーツ交流、④女性交流、⑤コンテンツ交流）

（注）「日中文化・スポーツ交流推進年」認定事業は上記1～4の1,800名及び6のうちの270名、JENESYS2020の375名を合計して約2,400名。

「推進年」は1～12月の事業を認定登録するため、2021年1～3月に実施予定の上記5の100名及び6のうちの105名を含まない。

① 中国高校生短期招聘事業（教育部）（前表No.1）

教育部派遣の中国高校生800名を招聘。滞在期間は8泊9日とし、招聘時期は調整中。日本の高校生との交流や環境・防災をテーマとする活動をメインプログラムとする。

中国側担当機関：中国教育部

受入実施：日中友好会館、一部を他団体に委託予定。
委託団体は企画競争にて決定予定。

② 中国大学生短期招聘事業(中日友好協会)（前表No.2）

中国の大学生600名を招聘。滞在期間は7泊8日とし、招聘時期は調整中。日本の大学生との交流（文化・スポーツ交流を含む）や地方間交流、環境・防災関係施設への訪問・視察をメインプログラムとする。

中国側担当機関：中日友好協会

受入実施：日中友好会館、一部を他団体に委託予定。
委託団体は企画競争にて決定予定。

③ 中国大学生短期招聘事業(上海交通大学)（前表No.3）

上海交通大学の学生300名を招聘。滞在期間は6泊7日を目安とし、日本の大学生との交流や環境・防災関係施設への訪問・視察をメインプログラムとする。

中国側担当機関：上海交通大学

派遣協力 : 在上海日本国総領事館
受入実施 : 日中友好会館

④ 中国青年短期招聘事業(中華全国青年連合会) (前表No.4)

中華全国青年連合会に所属する青年 100 名を招聘。滞在期間は 6 泊 7 日を目安とし、招聘時期は調整中。日本の青年との交流や、環境・防災関係施設への訪問・視察をメインプログラムとする。

中国側担当機関：中華全国青年連合会
受入実施 : 日中友好会館

⑤ 中国青年短期招聘 (中国宋慶齡基金会) (前表No.5)

中国宋慶齡基金会に所属する青年 100 名を招聘。滞在期間は 6 泊 7 日を予定。招聘時期は調整中。公益事業に関する交流・視察、環境・防災関係施設への訪問・視察を行う。

中国側担当機関：中国宋慶齡基金会
受入実施 : 日中友好会館

⑥ 中国青年短期招聘 (戦略的招聘) (前表No.6)

中国の公務員、経済関係者、各界の青年、学生等 375 名を約 10 回に分けて招聘。滞在期間は 4 泊 5 日～7 泊 8 日を目安とする。招聘時期は調整中。環境・防災関係施設への訪問・視察、団員の分野に応じた日本の青年との交流や関係施設への訪問・視察を行う。

中国側担当機関：事業ごとに調整
派遣協力機関 : 在中国日本国大使館等
受入実施 : 日中友好会館、一部を他団体に委託予定。
委託団体は企画競争にて決定予定。

(3) 第三国での植林・植樹事業

第三国での植林・植樹事業は、公募による日本の民間団体や地方自治体に対する助成方式で行う植林事業と、会館が主体となり実施する植林・植樹事業に分かれる。

助成事業は、日本の NGO 等民間団体や日本の地方自治体からの申請を受けて審査し助成を決定。助成を受けた団体は会館の実施規程に従い、第三国の団体等と協力して当該事業を実施する。主に東南アジアを対象とし、年間 8 件程度に助成予定。対象国の環境保護や防災につながる植林事業に助成する。現地での植林活動への日本からの参加者の派遣を含む。

会館が主体となり実施する植林・植樹事業は、外務省及び国内関係団体と連携して、第三国の協力を得ながら植林・植樹や環境・防災啓発プログラム等を実施。現地での植

樹活動への日本からの参加者の派遣を含む。外務省及び現地政府との調整を経て、外務省からの計画の通知を受け実施する。

いずれの事業においても、事業案件決定後、会館又は外務省から中国側関係機関に当該植林・植樹計画を通知し、日中双方が共同で事業を実施する場合には、会館は、助成団体又は国内関係団体と連携し、中国側と必要な調整を行う。

〔Ⅱ〕収益事業： 資産管理部

(1) ビル賃貸業務

現在空室となっているのは3ヶ所の倉庫のみで、事務室は全て入居済み。周辺地域の空室率は引き続き低い水準を保ち、従い賃料も引き上げ傾向にある。

但し、今期中には9社のテナントと契約更改を迎え、更にはその内の3社は「定期借家契約」での契約であることから、一時的にせよ空室期間、及びフリーレント期間が発生する可能性があるため、令和2年度のオフィス賃貸料収入を632百万円と見込んでいる。(令和1年度実績見込は636百万円)

【定期借家契約テナント】

名称	部屋番号	面積 (㎡)	用途
データホライズン	302A	254.16	一般事務室
アイリスオーヤマ	802b	342.37	一般事務室
	807	14.44	倉庫
	1206	17.13	倉庫
FP パートナー	501	922.11	一般事務室
	505	28.84	倉庫
	507	7.86	倉庫

※定期借家契約…契約期間の満了により確定的に契約を終了させる契約で、原則として更新を前提としてない契約形態の事。

(2) ホテル宿泊施設 (後楽ガーデンホテル)

令和2年度はホテル客室の稼働率を81.9%、売上を369百万円と見込んでおり、今年度実績見込より約6百万円の売上増を目標としている。

年度前半は新型コロナウイルスの世界的な蔓延がある程度の影を落とすと予測しているが、7月下旬から約1ヶ月半の間は東京オリンピック・パラリンピックの効果で満室稼働を期待している。

但し、周辺に競合ホテルの開業が相次ぐ中、経営環境は依然として厳しい状況が続くが、営業面の強化や宿泊予約サイトやエージェントの活用等、集客に結びつく各種の施策を講じ、目標を達成できるよう努力する。

(3) 設備更新

令和2年度に実施する予定のホテル棟及びオフィス棟の設備更新・改修、修繕工事の主な工事は次の通り。

宿泊客の居住性及びテナントの利便性向上に繋がる工事を実施し、収益の向上を図るとともに、老朽化した設備の更新を実施する。

- ① 後楽ガーデンホテル／4F（18室）ユニットバス改修工事（予算 2,700 万円、
施工予定 4～5 月）
- ② 後楽ガーデンホテル／インバウンド対応工事（予算 400 万円、施工予定 5～6 月）
東京都観光財団からの補助金 200 万円を利用し、地震発生時の非常用放送の多言語
化及び館内サインの更新を行う。
- ③ 後楽ガーデンホテル／ホテルトップライト及び外部キャノピー改修工事
（予算 1,000 万円、施工予定 5～6 月）
老朽化によりガラスの割れや水漏れが発生している 1F ロビー天井のシール打ち換
え及びガラス更新と、アルミ部が腐蝕しているキャノピー部(車寄せ上構築物)補修。
- ④ 後楽国際ビルディング／二段式駐車設備部品交換（予算 1,500 万円、施工予定 8 月）
B2F 及び B3F に全 36 基設置されている二段式駐車設備の駆動装置関連の更新。
- ⑤ 後楽国際ビルディング／男女トイレ改修工事（予算 1,200 万円、施工予定 9 月）
排水管の劣化が目立つ男女トイレ(4 フロアを予定)の改修。
- ⑥ 本館共通／発電機設備更新工事（予算 3,000 万円、施工予定 4 月）B4F に設置して
ある非常用発電機の更新工事。2 年計画の 1 年目。
- ⑦ 本館共通／電話交換機更新工事（予算 1,000 万円、施工予定 9 月）今年 9 月で部品
供給が停止するホテル及び会館事務室用の電話交換機の更新。
- ⑧ 本館共通／駐車場リフト改修工事（予算 1,400 万円、施工予定 6～12 月）今年で部
品供給が停止し、竣工以来主要部品の交換を行っていないカーリフトの改修。

〔Ⅲ〕 会員相互扶助事業： 日中友好後楽会

賛助会員組織「日中友好後楽会」は、会館の施設を活用し中国人留学生と直接交流を通じ相互理解を深め日中双方の親睦を深めることを目的として1989年7月に創立(当初会員は90名)。

(1) 会員数

令和2年2月現在の後楽会の会員数は66名(内法人会員2社)。個人会員は新規の加入もありましたが退会もあり、会員総数は前年度と同数でした。近年は会員の高齢化による会員数減少が進んでおり、宣伝告知を引き続き強化し、入会希望者は随時受け入れる方針。

(2) 活動状況と計画

令和2年度も従来どおり月例「談話会」・「会員集会」で後楽寮寮生による専門分野の講演会並びに交流食事を開催。なるべく多くの方に興味を持ってもらえるよう、各月の講演テーマを文化、経済、政治、芸術など、多岐にわたる分野から選定し、バラエティーに富んだ講演にしていく方針。

「観桜会」、「会員総会」は平成30年度より涵徳亭改装により使用できないため、会館内レストランを使用。ほかに、関東周辺への春秋日帰りバス旅行も例年通り実施予定。会員限定の気功教室・中国画教室も引き続き月2回のペースで、中国旅行は6月頃に7日間前後で実施する予定。

令和2年年度も活動の形態や時間帯などの会員の希望を柔軟に取り入れ、参加者の増加に努めてまいります。

[IV] 法人会計部門

(1) 総務・人事

- ① 健全且つ円滑な会館運営を図るべく、事業部に対する牽制と支援を積極的に行う。
又、経営と一体となり、ガバナンスの強化を図る。
- ② 事業規模に適した人員を適材適所に配置し、最大の成果を生み出すよう心掛ける。
- ③ 業務効率を一層促進し、時間外勤務の減少を図ります。
- ④ 女性職員が安心して出産・育児を行い、スムーズな職場復帰が出来る様配慮する等、職員の生活設計に配慮した勤務環境を整えます。
- ⑤ 実務を通じた業務指導を徹底し、人材育成を強化します。又、より公正な人事評価を実施することで、職員のモチベーションを高めます。

(2) 財務

- ① 予算と実績の経費管理に基づく財政状態の適時把握を行います。
- ② 会館全体の経費削減に努めます。
- ③ 迅速的確な経理処理による、総務財務部の効率運営を促進します。

(3) 広報

組織横断型広報チームを中心に、広報活動を強化し、会館の公益性や諸活動の認知度を高めることに注力します。

- ① 会館ホームページを充実させ、随時更新します。
- ② 会館の広報誌として毎月発行している「会館だより」は、年間の各事業の事前広報及び事後の活動報告を掲載、特に重点事業の活動報告については誌面を工夫した特集ページを組むなど、内容の一層の充実を図ります。昨年同様に会館ホームページにも掲載します。
- ③ 毎月発行している会館メールマガジンは、「会館だより」掲載内容のほか、主に文化事業部の主催展ほか個別の宣伝・告知に関する発行も増やすように努めます。
- ④ 従来同様、活動の総括として「日中友好会館年報」を作成します。本年度も早期に完成させ、各関係先(理事・監事・評議員及び必要に応じ外務省、中国大使館等へ持参)に配布致します。
- ⑤ 会館の各事業の特性に合わせて、関係先や日中のメディアとの接点を増やし、社会へのアピールを強化します。

以上